

参考DATA

● 日本の総人口(外国人含む)推移
(2030年以降は推計)



※2010年の数値は国勢調査より。他は国立社会保障・人口問題研究所による推計値(出生率一定・死亡中位)



今回のテーマ

“人口減少”

2010年の国勢調査(確定値)によると、日本国内の日本人の人口は1億2535万9千人で調査開始以来、初めて減少した。この人口減少&少子・高齢化が孕んでいる問題とは?

日本は人口減少社会に突入! 一方で世界では人口爆発の懸念

2050年には9600万人台にまで減るとも言われている日本の総人口(外国人含む)。人口減の主な要因は、働く女性の増加や晩婚化・未婚化が進み、低い出生率が長く続いていること。国も働く母親の支援などに力を入れているが、歯止めが利かない状況だ。では、人口減の何が問題なのか。明治大学政治経済学部に加藤久和教授はこう説明する。

「最大の問題は需要の減少です。モノを買う人たちが少なくなるので、企業は売上げが減り、モノやサービスの供給量も種類が減ってきます。経済全体が縮小していくのです」

日本の労働人口は現在およそ6600万人いるが、20年後には1000万人近く減るともいわれている。経済の担い手が大幅に減る一方で、高齢者の割合が急速に上昇。年金や健康保険などの社会保障制度の危機はすでに大きな社会問題となっている。

ただ、人口減に対して、「人口が減れば受験戦争も通勤地獄もなくなり、もっと快適な世の中になるのでは? CO2が減るから環

境にもいい」といった声もある。

「今の社会環境そのままでは人口だけ減るわけではないのです。受験戦争の例でいえば、受験生が減れば大学も減る。選択肢の少ない不便な世の中になっていきます」(加藤教授)

多少不便でも構わないという意見もあるだろう。それは一つの考え方もかもしれないが、加藤教授は「人口の減少はいつたん始まると、ちよつとどこかで止めることができない」と指摘。放っておけば、日本は加速度的に貧しくなっていく。10年単位で目に見えて社会が変わっていくと加藤教授はいう。

では、何か有効な対策はあるのだろうか? 各種推計によれば、今世紀中に日本の人口が増えることはもうない。少しでも人口減の勢いを抑える策としては、出生率を上げることや移民の受け入れなどがある。労働者1人当たりの生産性を上げることが必須だ。

さて、日本がこうした課題を抱える一方で、世界では人口爆発への懸念も議論されている。近い将来の世界的な食料、水、エネルギー不足ももちろん看過できない。いずれも悩ましい問題だが、あなたはどつ考える?